

甚造兵衛の話を (その2)

(神様が相撲をとった話)

今日は、梅田の熊野神社のお祭り、笛や太鼓の音も賑やかで、神社の境内には相撲がハツケ ヨイ ヨイ ノコッタノコッタと黒山の人です。安積郡からきた安積山の強いこと、強いこと、誰がとっても勝てません。

三人抜き、五人抜き、いよいよ、七人抜きとなりました。六人までが投げ飛ばされました。あとは、誰も土俵へ上る者がありません。

これを見ていた甚造兵衛は「そんぢゃあー俺も一丁やってみっぺー」と土俵に上がり、がぶり四つに組みましたが「甚造兵衛どん頑張れー」「安積山！負けるなー」両方の応援はものすごい、甚造兵衛は「エヤーー」声安積山を高々と土俵の外へつり出しました。

「やっばし、甚造兵衛どんは強い、日本一だー」とみんながほめはやしました。甚造兵衛は得意顔でおおいばりでみんなを見てました。

その時、見なれぬ小柄な男が土俵の上にあがりましたので「いやあー」というかけ声と共に高々と頭の上に持ち上

げて「さあ！」「さあ！」「小人のあんちゃん、お前さんのおうちはどっちだい。入口まで投げ飛ばしてやっぞうー」といいました。

すると小柄の男は「景色は満点！勝負は決った 投げられるものなら投げてみな、その前に、お前のからだか土俵の上に倒れているよハハハハ」と甚造兵衛の頭の上でニコしながら足をバタバタしておりました。

甚造兵衛は、持ち上げてはみたものの、どうにもならず立往生 そのうち 額からは玉のような汗がポタリポタリポタリと落ちて、そして、とうとうヘナヘナと腰がくだけてしりもちをつきました。

これを見ていた沢山の人々はアーツと驚き、目玉キョロキョロその後 この時の相撲の話を聞くと、甚造兵衛はかならず「あの時のあの男の重いこと、重いこと、あれは人間じゃあーねえーありゃーきつと熊野神社の神様だ！ありがてえ ありがてえ！」と答えたそう。